

「鎌倉の素敵な建築」

鎌倉といえば鎌倉幕府に由来する日本の歴史や風情を感じる文化や建築に目が向きがちですが、明治期に華開いたリゾート文化により、実は「レトロ」で「モダン」な洋風近代建築も数多く残っています。今回はそんな鎌倉の素敵な建築に焦点を当て、鎌倉市出身の講師とともにフィールドワークを交えながら新しい鎌倉の魅力に迫りました。

Day 01 講義

歴史を学ぶ意義と楽しさ ～近代建築の通史(超ダイジェスト版)～

「歴史が好きな人！」講師の問いかけに全員が手をあげます。「歴史が得意な人！」今度は全員が手をおろしてしまいました。「歴史=年号の暗記だと思いませんか？歴史はもっと身近なものでそこから学びを得ることが大切」だと志村先生。

「温故知新」で歴史を身近に！

「昔のことを知って未来に活かすことは皆さん自然にやっています。昨日食べたご飯が美味しかったから明日はこっちの食堂に行こう！これも過去の事実を知って未来の機会を広げています。これと同じように人やまちの特徴を振り返ると改めて魅力に気づき疑問も湧いてきます。それを掘り起こしてみると楽しい発見があるというのが温故知新の本当の意味ではないでしょうか。」



「はかない」建造物を未来に残していくために

「私たちは日常の8割を建物の中で過ごしているので建築のことを考えることはとても大切です。昔の建物は価値が高いと評価され手厚く保護されますが、割と近い時代のものは実用性がないとどんどん壊されてしまいます。法的な資産価値を示す耐用年数が木造は22年、鉄筋コンクリートは47年だということをご存知でしょうか？木造建築は20~30年経つと不動産の価値が0になってしまうのです。鎌倉市では歴史ある近代の建物を守り補助支援していく市独自のルールを設けています。」

200ページを超えるスライドで密度の高い講義となりました。

志村 直愛先生

東北芸術工科大学 芸術学部 教授



1962年鎌倉生まれ。豊かな歴史の蓄積を活かした都市景観の形成やまちづくりを研究・支援している。



Day 02 散策

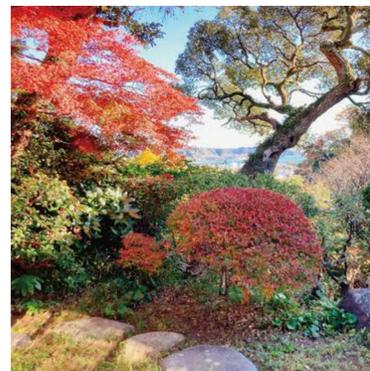
フィールドワーク 長谷～由比ガ浜駅



「景観重要文化財」と「登録文化財」を中心に解説を聞きながら実際にまちを歩きます。普段何気なく通り過ぎていた街並みを違う視点で見ると新しい発見があり充実した時間となりました。

pick up!

鎌倉霊源閣(旧山本条太郎別荘)



標高40mの高台に立地しており細部に工夫が凝らされた京風の近代数寄屋建築。この日は年に1回の一般公開日。特別な飾り付けがされ綺麗な紅葉も見ることが出来ました。

吉屋信子記念館



小説家の吉屋信子が晩年を過ごした邸宅。近代和風建築家の吉田五十八が設計を手掛けた国登録有形文化財。天井や窓には工夫が凝らされ、和風要素も巧みに取り入れたシンプルでモダンなデザインが特徴です。

「素敵な建築」は"まち"の風格を表し歴史を伝える大切な建物！

大学では年間でカリキュラムが組まれる程の内容を2日間で駆け抜けた今回の講座。凝縮された内容と歴史や建物が持つパワーに圧倒される有意義な時間となりました。歴史的なものに対する市民や現場の方々の意識や感覚は近年大きく変化しているようです。様々な工夫をしながら価値あるものを次の世代に残すための活用例も見ることが出来ました。今回の講座で見聞きしたことを発信することもその一助となります。皆さんもぜひ楽しみながら学びを共有してみてください！